

# The Effects Group Activities and Self-Reflection have on Engineering Students in the English Classroom

August 29, 2019

JACET @ Nagoya Institute of Technology

# Yumi Nakamichi

Faculty of Engineering Hokkaido University

### **Outline**

- 1. Introduction
- 2. Literature Review
- 3. Method
- 4. Results and Discussion
- 5. Conclusion

#### 1. Introduction

# **English Education Program**

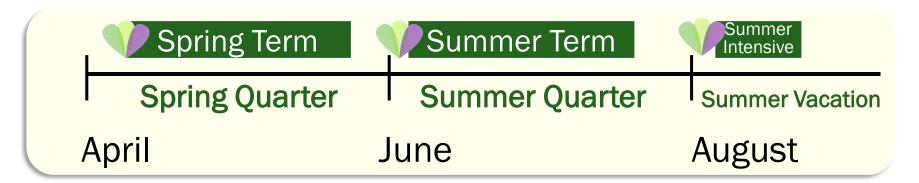
Center for Engineering Education Development



Faculty of Engineering Founded in 2005

## **Brush-Up English Courses**

Non-accredited, extracurricular 6 classes per term



Once a week

→ Spring, Summer, Fall and Winter Quarters Intensive Course

→ Summer and Spring Breaks



# Repeaters

12 / 177 students in 2015

6 classes per term

# Is this enough?

2,200 - 2,500 hours

to acquire a certain proficiency level of English for the Japanese speakers

(Inagaki 2005; Hiromori, 2015)



# **Science/Engineering Students**

- Not comfortable using English
- Great amount of time for the engineering study
- Not many opportunities to study/restudy English
- Applying for companies that do not require English skills

(Terui, Suzuki, & Truscott, 2016)

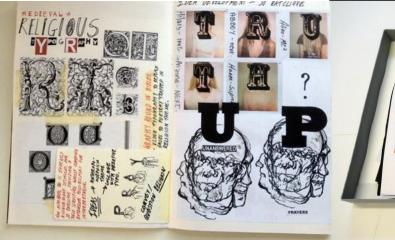
### 2. Literature Review

- 1. Portfolios
- 2. Motivation and Self-Determination Theory

#### **Portfolios**









#### **Portfolios in Education**

a collection of documents to self-assess by collecting, selecting and reflecting

(Mineishi, 2001, 2002)

# Types of Portfolio

- working portfolios
- display/showcase/best works portfolios
- assessment portfolios

(Mineishi, 2001, 2010)



# **European Language Portfolio (ELP)**

Common European Framework of Reference for Languages (CEFR)

# Portfolio as a pedagogical function

- Reflect on objectives, ways of learning, success
- Plan learning
- Learn autonomously

(Schneider & Lenz, 2015)

#### **Portfolios Used in Education**

#### Universities

Emoto (2015, 2017) Iwate University, Mie University, and Saga University

#### **Hokkaido University**

Nitobe School, Graduate School of Life Science

#### In language classrooms

- Nakatake & Sakurai (2016) Work well especially when used in class
- Hojo, Matsuzaki, & Takahashi (2016), Hojo, Kato & Matsuzaki (2017) accept portfolios favorably, Help autonomy
- Funabashi (2005) Connect study inside the classroom to outside, Accomplish their goals
- Huang & Hung (2010) Improve speaking
- Uno & Uto (2011) Learn from other students, Motivate students to learn more and learn continuously
- Aliweh (2011) Help students by reflecting, Need comparison between experimental and control group
- Nakagawa (2015) Need comparison between experimental and control group, Need both quantitative and qualitative analysis



# **Motivation and Self-Determination Theory**

#### **Motivation**

whatever drives learners to stay engaged in studying (Kawai, 1999)

# Influence of motivation

99 per cent of language learners who really want to learn a foreign language (i.e. who are really motivated) will be able to master a reasonable working knowledge of it as a minimum, regardless of their language aptitude.

(Dörnyei, 2001)

University of Nottingham https://www.nottingham.ac.uk/english/people/zoltan.dornyei



# **Self-Determination Theory**

Deci, E.L. & Ryan, R.M., (1985, 2000)



- Organismic Integration Theory
- Basic Psychological Needs Theory

# **Motivation and Self-Determination Theory**

# Organismic Integration Theory

Behavior 行動	Nonself-Determined Self-Determined 非自己決定的(他律的) 自己決定的(自律的)						
Motivation 動機づけ	Amotivation 非動機づけ	Extrinsic Motivation 外発的動機づけ				Intrinsic Motivation 内発的動機づけ	
Regulatory Styles 調整スタイル	Non-Regulation 無調整	External Regulation 外発的調整	Introjected Regulation 取り入れ的調整	Identified Regulation 同一視的調整	Integrated Regulation 統合的調整	Intrinsic Regulation 内発的調整	
	Lack of Motivation 動機づけの欠如		Motivation 動機づけ	A	Autonomous Motiva 自律的動機づけ		
	Lowest Relative Autor 相対的自律性低	nomy			High	est Relative Autonomy 相対的自律性高	

Ryan & Deci (2000), Sakurai (2009) Modified by the author



# **Motivation and Self-Determination Theory**

# Basic Psychological Needs Theory

Needs	Autonomy	Competence	Relatedness
How to fulfil the need (Hiromori, 2016)	have students take charge	review accomplishment s and self-assess critically	

# **Relationship between Portfolios and Self-Determination Theory**

Need for	Portfolio	Preceding Studies
Autonomy	Collect, Select and Reflect	Mineishi (2001, 2002), Funabashi (2005), Lo (2010), Nakatake & Sakurai (2016), Yoshishige (2016), Hojo, Matsuzaki, & Takahashi (2016), Hojo, Kato & Matsuzaki (2017)
Competence	Self-assess by reflection	Inokawa (2006), Matsuzaki & Hojo (2007), Huang & Hung (2010), Nakagawa (2015)
Relatedness	Learn from others	Uno & Uto (2011), Aliweh (2011), Hojo & Matsuzaki (2013), Tsuda (2017)



# **Relationship between Portfolios and Self-Determination Theory**

Needs	Autonomy	Competence	Relatedness
How to fulfil the need (Hiromori, 2016)	have students take charge	review accomplishment s and self-assess critically	interact, assess others, and vice versa
Portfolio	Reflect on objectives, ways of learning, success Plan learning	Self-assessing by collecting, selecting and reflecting	Group work Peer review

# **Research Questions**

# RQ1

Do portfolios satisfy the need for autonomy?

# RQ2

Do portfolios satisfy the need for competence?

# RQ3

Is the need for relatedness satisfied by adopting peer review in the reflection process?



#### 3. Method

- Mixed-Methods Research
- Convergent design
- Questionnaire of Hiromori (2006) 42 questions
- Portfolio as tool
- Questionnaire at the end
- Microsoft Excel 2016, BellCurve for Excel (version 2.21)

# **Portfolio**

				Reflection Sheet		Class Basic Level 1		er Term 2018	effection Sheet						Reflection Sheet			
Class: Basic	in I make I	Term. Summer Term	2018		Name:		Day 1 6/19		Day 3 17 / 5 C	Name Day 4	Class Basic Lev		Term Summe			Day 4	David N. J. Co.	David
	Day 1 の中で、この かったと思う にかったと思う	61分 Day 2 - ファ・ロ 日 Tan は 第 1 第 2 日 日 1 日 1 日 1 日 1 日 1 日 1 日 1 日 1 日 1	1/23 24 C ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) (	Day 3 71 年 かからかってかる かかのかってかる かかのかってから ないできる。 ないできる。 をはいませんとか	生 4(2 つしか。た。	今日の活動の中で、この 学習者のよかったと思う ところ			**************************************	There's A there are this course \$400 course where	今日の活動の中 学習者のよかっ ところ	中で、この ったと思う 正	大きなーフひとフ 五後に理事でする			ACTION OF THE PARTY OF THE PART	・ 17,00 つ30 かで まってはいちゃ。 ・ 質別 からにまや はなってませいちゃ	
今日の活動の 学習者が、次 がんばれると思	の中で、この たにもう少し 思うところ 日本 語 名子 食・	Vert fins		pro-city to prior the Robe (mr 10.1	日本意志はカカラフをもませる。「「日本意志」はフカートのようない。「日本語」はフカートにいからいません。	今日の活動の中で、この 学習者が、次にもう少し がんばれると思うところ			リスニングのしきの 食中かた付はでは も、と聞きなれるという 好まな思いました。	区はって語 明日、1200年 少を長いた。 跨ですった。	がんばれると思	Bうところ /			は、日本の意味であった。 を表示は、対けて かった。 では、対けて は、ままでのようか に、ままでのようか		opent to the Annie Light	
自己評価 ・よかったところ ・さらにがんばれる	5000 5000 5000 5000 1000	ne 707-	10 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	を日の利の Kリ (中八)れた のではわれた	「日日ノウフーズガルモが」 いいも幸込を残る できれて見ら	自己評価 ・よかったところ ・さらにがんがまれるところ	ていることではないます。 まままではないます	· 前は7 読めた 気がする。(受害) · 全然 マックラージ マピなかった。 タカ もいんはではい	発される 質問 したときにして、 と自分から いくべき。	いまいまなり で全話をで ていかいり 走の本ななり	自己評価・よかったとこ。	さ まれるところ	· 李· 大年 2 南色 五十 龍七 元 元 - 元 - 元 - 元 - 元 - 元 - 元 - 元 - 元 -	* 北方仮。 の一三 大阪・古	文成 二萬十二 文章 三位文章 中山門 - 在第一。	Maj a from	A Lines	2 3 4 .
今日の活動の中で、 学んでよかったと 思うところ	1- KIL H	रेव कि हैंग रेक में मुस्तार एक इंस्केट	1911年11日		\$1282 612 86,542 415 F;1190	今日の活動の中で、 学んでよかったと 思うところ	ながっていています。	700-7070 高かり	リスニングリフ 文の最初1年 注意報。	リスニングラン ちかう単語 きっえていたよう なっついてこの	今日の活動が 学んでよかっ 思うところ		· 関心内原: 道·仁言董 表述一十九:	· 12 · 15	100 - 100°		10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 1	4
		- 2010	Refle	ection Sheet	Name:	Class: Basic Level 1	Term: Sum	mer Term 2018	Reflection Sheet	t	Cli	lass: Basic L		Term: Fall Term	2018	Reflection Sheet		1.
Class: Basic Level 1	Term: S	9 Day 2 6 /	o L Day		Day 4 7 / 0		Day 1 6 / 19	Day 2 6 / 26	Day 3 7 / 1	Day 4	-	今日の活動の	Day 1	10116 1	Day 2 10 /42	Day 3 101 1		Namak
今日の活動の中で、この 学習者のよかったと思う ところ	o l	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	製工で 前: では (ご	マルを成り	5.1% × 株成す 5.41 下すくで、 歯を というすがたです 東京投入時代 種種的に各かし ナカが成いと思い したか。	今日の活動の中で、この 学習者のよかったと思う ところ		1 0厚片、线色	がある。これが が12 かに けまし かにである コツ	. Khine	試合と	学習者のよか ところ	かたと思う。独立				Day 4 117 6 見書からないな。 も。 機経動の変見を 言っていた。	Day 5
	くっとなりです。 すっと思う。 すっとと発行さ	TO DE TOTAL	年 美女	LE WATER	東文を領生場面で 5、水質されら、 はながっていた にちでう。	今日の活動の中で、この 学習者が、次にもう少し がんばれると思うところ	上記の器・サヤー 売店してしまうれい 相手を返答を もかずし 舞~ほうれ 良いと思った。	: 言いた はらかった。 度いと思いました。		もないかり 3様にからしょう!!	聞きまか	がんばれると	思うところ	取り着にあって 自然を持って、できりにはなくと に思います。	- 10 - 100 1 7 - 120 1 - 1 - 1 - 1 1 - 20 - 1 - 1 1 - 20 - 1		リステンケキとも まる心をのです。 と自信を持ってく たさい・・・・	
己辞価 かったところ らにがんばれるところ 点	173七尺ウのでの 11・12・13 20日のでは、11・12・13 20日では、11・12・13 20日では、20	リーはの意識					端文語、解等である。 ある特性度を受えられている。をできる。 ができた。 単語の理解を もうかし、実め3イモ たで思う	大理解7世3大章	シーチがあるかり	で現す からた 日本 対す ではいえ とはいえ 成長で これ 感じ でいる	らたり、これの中にはない。		thocas the	関立でから、 単語を関ぐこの でいと見る。「こ。	でもつうーラョンの時 して、ころったとこか だいかり違って おなる 色でおところでしたが ちゃいとなみる。 前書詞とか聞ると るようになりない。	5	今日、リスコンケット 日かんやで もこもこ 間 ことかいたとと 代かっしいろこかり 年 まかくいよりでいるし	からか
の活動の中で、 りまかったと	5-27ですべた外で と成る東京ないも大田県	2023年 11月1日 12月1日 11日日				学んでよかったと 思うところ	支護免費を こしばりく基で生かなものはできていなか。 ので、リハビリみたい	初回①文章の到 (本あ3程度理解) を主たと思う。		とかかってまて早	×(1)	今日の活動 学んでよか 思うところ	otak 8	10-92581 10-14-1- 2-3-54R	1 appreciate a		welcome pour	



# **Portfolio**

			Reflection Sheet	4
Class: Basic Level 1	Term: Summ	er Term 2018  Day 2 6 / 26	Day 3 7 / 7	Day 4
今日の活動の中で、この 学習者のよかったと思う ところ	語彙が豊富で よで僕の会話がと アシストして下むた して	グループが語し合いの際に、話を 進めて不さったり、 積極的に会話に 下さったこと。	デスからなってなら、 程程的に対定的 かて下さったこと、	どんどん葉を生してくれたので、話し合がよく進みました。
今日の活動の中で、この 学習者が、次にもう少し がんばれると思うところ	上記内容とやや を育してしまうが、 相手、返答を もうかし待っほうが 良いと思った。	もう少しかくり話したほうが、たいと思いました。	他の人の意見を行うし聞く 時間をとれる ないました	最初のリスニング も、としかり聞きて 3様にかしばり しょう!!
・さらにがんばれるところ	論文読解等である程度経入られたというとを感じることができた。 単語の理解をもかし深め31°E	前回よりは単語等 を理解できる文章だり と思うか、ディクラーション 等はもう少し上手く 行いたかった。	英語を前よりも診断 ことが多くなり、 上おく会談でもたと 思う の早とちりか、非常は 多からたて思う	うからを目だったしる 記差したい。 とはいえ、その中 成長でとないると、 感じている。
きんでよかったと 引うところ	英語勉強を ここしばらく基礎的なものはできていないた ので、リハビッチたいに	きたと思う。	日常的に使用する 機会も増えなか 成長して113と感し とれた。	うかっこまで長く行



#### 3. Method

# Questionnaire - Hiromori (2006)

# Psychological needs

6 questions each for autonomy, competence, and relatedness

# Motivation development

- 5 questions each for intrinsic regulation, introjected regulation, external regulation, and non-regulation
- 4 questions for identified regulation.



#### 3. Method

Participants: 49 engineering students (34 m, 15 f)

Class: speaking activities

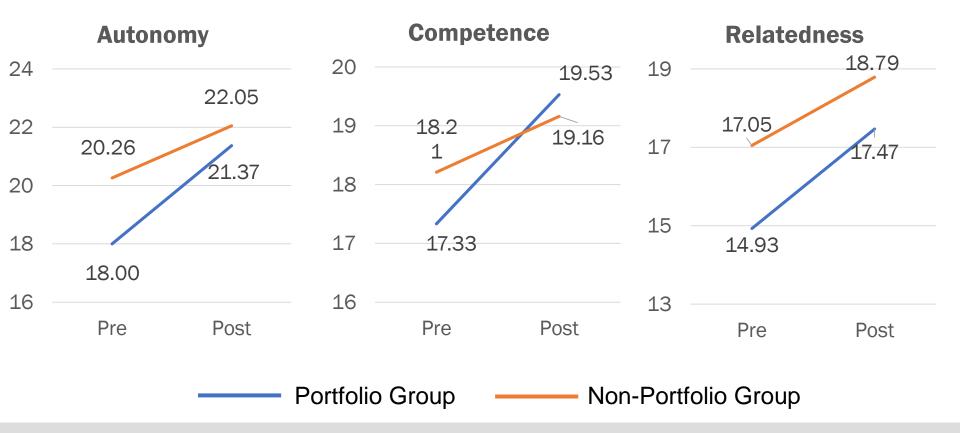
Period: June to November 2018

Group	Experimental group	Control group
#	30	19
Intervention	Portfolio in class	No portfolio



#### Results

# Pre-Post Comparison of Satisfying the Needs for Autonomy, Competence and Relatedness





# **Answers to the Research Questions**

# RQ1

Do portfolios satisfy the need for autonomy?

# RQ2

Do portfolios satisfy the need for competence?

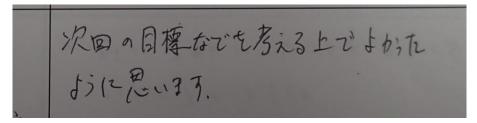
# RQ3

Is the need for relatedness satisfied by adopting peer review in the reflection process?

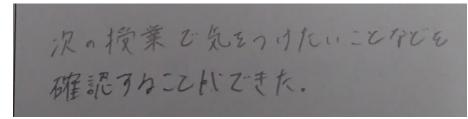


How did reflection affect your English learning?

### **Noticing**

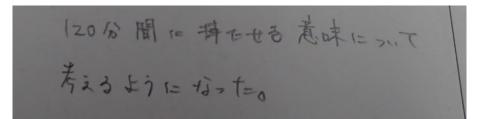


It was good to think about the goal for the next class.

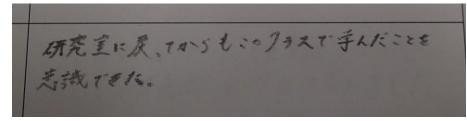


I could identify what I should work on next time.

#### **Attitudes**

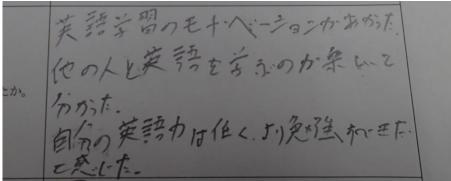


I could give meaning to the 120 minutes of the class time.

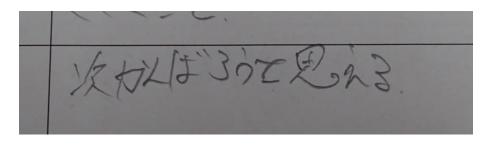


I tried to use what I had learned in class after I went back to my lab.

#### Motivation

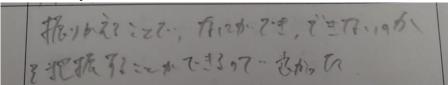


It motivated me to study English.

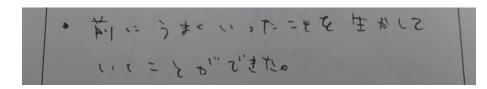


I want to do better next time.

### Competence



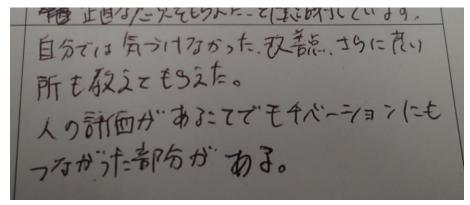
I could organize my thought, what I can do and what I cannot do.



I could try to keep doing the good job that I did last time.

# Noticing from others

I feel I could have done better when someone mentions 'it's a shame you didn't do it. I know you can,' I can accept this kind of comment as a positive enforcement.



Comments from my classmates help me realize something that I did not notice when I study by myself.

# **The Negative Comments on Portfolios**

他人からの指摘で、飲めの長ずかと

次回に注意でいた点を意識して学習できてい

一個人がどう思えるのかをみて、

日分のマードなところらい。他人のマドリアイスから見記しまて

話にてみて、あるのまろかっている所、より切い門を国気できる。

周囲の ま生から評価をもうう。ことで、 自分に足りないでころいった気がくことができた。

#### **Discussion**

- No portfolios, no recollection in control group
- Questions need to be reviewed

#### 5. Conclusion

Quantitative and qualitative data show through self-reflection and peer reviews the engineering students

- found portfolios favorable
- more motivated.

The basic needs were satisfied in portfolio group.

# **Educational Implications**

# Merits of portfolios

- It does not take much time to introduce.
- Students tend to favor portfolios.

# But

 Teachers need to be careful when explaining how to self-reflect.



# **After the survey**

21 students from the portfolio-adopted class

/ 27 students continue to study English.

As of December, 2018

#### References

- 1. Aliweh, A.M. (2011). The effect of electronic portfolios on promoting Egyptian EFL college students' writing competence and autonomy. The Asian EFL Journal Quarterly, 13(2), 90-132.
- 2. Deci, E.L. & Ryan, R.M. (1985). Intrinsic motivation and self-determination in human behavior. New York: Plenum Press.
- 3. Dörnyei, Z. (2001). Motivational strategies in the language classroom. Cambridge: Cambridge University Press.
- 4. Huang, H.-T. D. & Hung, S.-T. A. (2010). Effect of electronic portfolios on EFL oral performance. Asian EFL Journal. 12(2), 192-212.
- 5. Inagaki, S. (2005). How long does it take for Japanese speakers to learn English? Osaka Prefecture University Language and culture. 4, 19-29.
- 6. Lo, Y.-F. (2010). Implementing reflective portfolios for promoting autonomous learning among EFL college students in Taiwan. Language Teaching Research. 14(1), 77-95.
- 7. Ryan, R.M. & Deci, E.L. (2000). Self-determination theory and the facilitation of intrinsic motivation, social development, and well-being. American Psychologist, 55(1), 68-78.
- 8. Schneider G. & Lenz, P (2015). European Language Portfolio: Guide for Developers. Retrieved from file:///C:/Users/ceed-eep01-pc/Downloads/European Language Portfolio Guide for Developers.pdf
- 9. 井之川睦美(2006). 「言語教育におけるポートフォリオーその理論と研究手法としての可能性ー」『言語教育研究法研究部会「言語教育研究法」研究成果報告会』 Retrieved from www.tufs.ac.jp/common/pg/gengo\_yousei/data/ppt/inokawa.ppt
- 10.植野真臣・宇都雅輝(2011). 「他者から学びを誘発するeポートフォリオ」『日本教育工学会論文誌』35(3), 169-182.
- 11.江本理恵(2015). 「高等教育機関における大規模かつ持続的な教育支援システムの運用に関する考察」『教育システム情報学会 誌』32(1), 111-122.
- 12.江本理恵(2017).「複数のシステムを組み合わせたeポートフォリオシステムの開発における考察」『日本教育工学会 第33回全国 大会』
- 13.河合靖(1999). 「外国語自律学習研究の3要素:動機づけ,学習スタイル,学習ストラテジー」『言語文化部紀要』37,68-85.
- 14.津田ひろみ(2017). 「英語が好きでない学習者の動機づけを目指す共同学習の試み」. 『実践女子大学紀要CLEIPジャーナル』 3, 63-77.



#### References

- 15.照井雅子・鈴木直弥・Truscott, G.(2016). 「理工系大学院生に対する実践的英語教育プログラムの構築」『工学教育』64(5), 123-127.
- 16.中川洋子(2015)「大学英語教育におけるラーニング・ポートフォリオの実践」『駿河台大学論叢』51,63-71.
- 17.中竹真依子・櫻井千佳子(2016). 「英語教育における学習ポートフォリオの活用: 自律的学習者の育成に向けて」『武蔵野大学教養教育リサーチセンター紀』6,65-76.
- 18. 廣森友人(2006). 『外国語学習者の動機づけを高める理論と実践』東京: 多賀出版.
- 19. 廣森友人(2015). 『英語学習のメカニズム―第二言語習得研究にもとづく効果的な勉強法』東京: 大修館書店.
- 20. 舟橋宏代(2005). 「ポートフォリオを利用したフリートークの「会話」授業」『鈴鹿国際大学紀要』12, 161-173.
- 21.北條礼子・松崎邦守(2013).「小学校外国語活動におけるポートフォリオを活用した5年生児童の動機づけを高める授業の設計と その効果」『上越教育大学紀要』33,285-294.
- 22.北條礼子・松崎邦守・高橋駿(2016)「小学校外国語活動における5年生児童の動機づけを高める授業の設計とその効果2:文字指導とポートフォリオのカンファレンスに注目して」『上越教育大学研究紀要』35. 195-203.
- 23. 北條礼子・加藤絵里・松崎邦守(2017)「小学校外国語活動における4年生児童対象のポートフォリオを活用した文字学習の授業設計とその効果」『上越教育大学研究紀要』37(1), 173-182.
- 24..松崎邦守・北條礼子(2007)「ポートフォリオを教授ツールとして活用する授業設計の検討-K看護専門学校における英語のライティング学習を事例として-」『日本教育工学会論文誌』31(1), 69-77
- 25. 峯石緑(2001). 「英語教育における教授ツールとしてのポートフォリオ」『日本教科教育学会誌』23(4), 39-48.
- 26.峯石緑(2002).『大学英語教育における教授手段としてのポートフォリオに関する研究』広島:溪水社.
- 27.峯石緑(2010).「第7章 学習者の自己省察・自律を促すポートフォリオ」小嶋英夫・尾関直子・廣森友人(編). 『成長する学習者 学習者要因と自律学習』東京:大修館書店.
- 28. 吉重美紀(2016). 「英語の授業におけるポートフォリオの活用」『鹿屋体育大学学術研究紀要』52, 25-33.

